1984・12・2

にいがた県民教育研究所設立総会

（於 ホテル湖畔）

1．にいがた県民教育研究所設立準備会活動報告

2．にいがた県民教育研究所、1985年度の活動方針（案）

3．予算（案）

4．設立宣言（案）

準備会常任委員会

「にいがた県民教育研究所」設立準備会の活動報告

(1984.12.2)

(一) 「活動しながら道をつけ、展望をひらいていこう」の出発

・「わたしたちは、県民の多様な教育要求に応え、かつ民主的な教育運動を支えるにたる系統的で科学的な教育研究のための機関の設立は、いまや緊急の課題になってきたと考えます。そしてそのような機関として、民間の「教育研究所」の設立を思いたちました。

資金やスタッフの点で「研究所」設立の事業が、多くの困難を伴い、教育要求の多様さや切実さにくらべて、「研究所」の力量がふさわしく発展する確信がもてるわけでもありませんが、小さな「研究所」でも、県民の情熱と英知とを結集することができれば、新潟県の民主的な発展のために、多大の貢献をすることができると確信しています。」(1981.1.1『ふるみち』)

・学者、医師、弁護士、教師あわせて8名のよびかけ人がすべての面にわたって合意して出発したわけでない。

・行政改革、財政改革 → 戦後教育の総決算を唱え、教育改革という情勢と新潟県の子どもたちの「非行・校内暴力」が全国平均以上の発生をみるなかで、研究所の準備活動がはじめられたのである。

・「すべてゼロから出発し、「夢のよう……」「途中で立ち消え……」と噂された設立準備会は1年7月経った今、根を張り、芽をだし枝を伸べ葉の緑を繁らせ、花の咲くところまできました。」

会員三百名余を迎え、「新潟の教育情報」4号まで発行する

準備会活動がここまできた1年7月の経過をふりかえり、その成果・教訓・課題を以下報告する。

(二) 二坪の事務所を砦としてすすめてきた1年7ヶ月の活動

1 二坪の事務局は私たちにふさわしい出発

(1) 9ヶ月の間借り生活

(2) 活動8ヶ月で二坪の事務所は、人と資料・書籍で溢れるまでになった。

(3) 十坪の事務所で、あらたな発展を実現する活動を……。

2 新潟県の教育の基礎的な研究

(1) 新潟県の学校統廃合の実状と問題

(2) 新潟県の学校(学級)規模の実態と教育課題

(3) 新潟県の学校教育活動(小・中)の実状と課題

(4) 地域の教育力実態調査活動

① 干潟校区(小出町)の地域教育力調査
～統廃合問題の教育的課題を探る～

② 大江山地区(農村モデル地域指定)の地域教育力実態調査
～住民自治による地域生活文化活動と教育～

③ 聖篭町の地域教育力調査（準備中）

(5) 北新支部内における子どもたちの放課後の実態.

(6)「今、県民は学校、教師になにをのぞんでいるか」意識調査.

3 新潟県の教育諸問題の研究.

(1) 子どもの人権と教育
～生徒問題等によせて～（一号）

(2) 新潟県の暴力・非行の実態とその克服の方向（一号）
・ひきつづき問題の追求と克服の方向の解明はのこされた課題となっている。

(3) 非行克服に切り込む実践の検討（二号）

(4) 生活綴方と人間形成.（二号）
・生活綴方教育の現代的課題を新潟県における実践とその歴史の中でひきらかにしていく仕事はこれからである。

(5) 新潟県の進路・進学問題（三号）

(6) 新潟県の学校の実状（ふ・中）と課題（四号）

以上であるが、どれも緒についたというところであり、これからの研究活動の成果を待つところである。

4 情報・宣伝・普及活動.

(1)「新潟の教育情報」1～4号発行.
・1号 1000部 全部消化

- 2号　1500部　数多く残部あり.
- 3号　1000〃
- 4号　1000〃

(2) 研究所通信　1～3号発行.

(3) パンフレットの編集・発行準備活動.

① 新潟県の子どもの性問題と教師・父母のあり方.

② 新潟県の子どものいじめとその克服

③ 子どもの忘れものとその指導

④ 新師と子ども・子どもと子どもの人間らしいふれあいづくり.

⑤ 新潟県の教師群像

- A5版, 64ページ, 2000部, 300円売り
- 1985・3月…順次発行.

5 相談活動, 交流・講演活動

(1) 相談活動.

- 性問題　・保育活動　・生活・教科学習・実践
- 家庭教育　・広報活動　・P.T.A活動　・非行.

(2) 講演, 教育懇談, 交流研究会活動.

- PTA講演会.
- 地域教育懇談会, 職場学習会
- 各地・県母親大会, 母親と女教師の会, 教研大会

- 地域民教サークル集会
- 新潟市学童保育連絡会
- 能生中学校訪問活動
- 上越有線放送協会「ゆうほう」に連続執筆

(3) 同所記念「教育基礎講座」の企画実施の準備進行中
- 1985・1986の二年にわたって、
- 三ヶ月に一回実施
- 講師ならびにテーマの予定は確認ずみ

(4) 研究部会活動

① 生活指導研究部会

② 人権と教育部会

③ 子どもの心・からだ研究部会

④ 授業実践研究部会（女教人確定・12月中準備会）

(三) 成果と課題

(1) 成果

① ゼロから出発した準備会活動は現在三百余名の加入を見、四号まで「新潟の教育情報」を発行することができた。この成果は数多くの県民と会員の方々の、子どもの健全な発達を切実にねがい、その方向を明かにしたいと念願のあらわれである。

② 学者、医師、弁護士、少年院の指導員、家裁の調査員、マスコミの労働者、その他数多くの県民が、子育てと教育に大きな関心と共同の活動とのぞんでいることを発見したこと。そして私たち（教師）が「子どもと父母、教委、組合、学バツ」しか見ない狭い見解に気づいたこと。

③ 千渋小学区地域教育力実態調査と同校統廃合問題に直面して、子どもの発達、教育に関して無限に数多くの人と教育で連帯し協力、共同できることを実証できたこと。

④ 大江山地区（新潟市）の教育力実態調査をすすめつつある中で、「非行克服」の一つの方向を掴みつつあること。

地域の教育力とはなにかを予測できそうになっていること。（若船上海府地区と朝日村と）

⑤ 新潟県の各地域の子どもをとりまく環境（自然、地域、家庭、学校）を事実と歴史に即して掴み、そのことと子育て、教育のかかわりを探究することの大切さの把握をしたこと。

⑥ 臨教審（教育改革）攻撃は、常に具体的な学校と地域にその攻撃のホコ先を向けていることを実感できたこと。

であるからその姿を明かにし、その克服と方向づけをする研究活動が今こそ大切であること知ったこと。

⑦ 地域の大変貌と学校の管理主義、能力主義の強化、商品主義社会の中で教育と子どもの頽廃は頂点的である。

まちがい、失敗し、きづつきながら発達していく人間は、人間らしさを失うほどのまちがい、失敗、きづつく体験を経験することによって始めて人間らしく生きていく道に到達できる、のだということを感覚できたこと。

だから、私たち大人は、根元づよく子どもの可能性を見守ること、育育、恐育でなくて、協育、共育を地域、家庭、学校、園に確立する活動が今緊急であること。

⑧ あわせて、子どもの発達をそこなうものに対して、徹底して対する「熱い血をたぎらせる」教師、父母集団を中広く結集していく組織力をつけること。

この成果は会全体の共通のものにしていく課題とし、更に磨かめ追求する余地をもちながら私たちは、以上の成果を確認することができた。と同時に残された課題

は限りない。

(2) 課題

① 新潟県の教育の基礎的研究の充実と発展をすすめる活動。

～趣意、ならびに活動方針で述べる～

② 新潟県の教育諸問題の研究を広り拡充していく活動。

～趣意ならびに活動方針で述べる～

③ 「新潟の教育情報」誌を改善し充実を図る活動、要求状況にあわせた出版物の適切な発行。

④ 要求にこたえることのできる教育相談、学習研究部、講座等の開催。

⑤ 以上の課題を実現できる会の執行体制の確立、健全な財政活動の確立。

- 会員を350～400名を達成する。
- 活動領域に即したスタッフの確立。
- 活動資金カンパの継続なとりくみ。